

# 多摩消防団だより

第13号  
発行 吉日  
平成26年1月 吉部  
多摩消防団印刷所  
井上印刷所

平成二十六年 多摩区消防出初式受賞者(敬称略)



1月10日、よみうりランド駐車場にて、多摩地区消防出初式が開催されました。



多摩消防団 団長 松澤 喜義

消防出初式も終え、本年も多摩区の防火・防災と安心して平和な一年でありますよう、多摩消防団は多摩消防署と連絡を密にし、車の両輪のごとく力を合わせて参ります。

今や、予想外の災害が国内外で起きています。自分の身は自分で守る。私達の地域は私達で守る。現場、町会等の訓練に参加しましょう。

町会、自治会、消防関係のご協力を頂きまして、事故なく安心できる一年でありますよう、皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます。



多摩消防署 署長 松野 忍

消防団員の皆様そして団員を支えていただいておりますご家族の皆様には、平素より多摩区の防火・防災活動に御尽力、御支援を賜り感謝申し上げます。

昨年は、幸いにして多摩区内では、大きな災害もなく区民の皆様は、平穩に過ごすことができました。しかしながら、全国的には尊い人命を失った火災、自然災害、人災などが発生しております。これらの災害を他山の石として、本年も多摩区が安全で安心して暮らせる街となるように消防団、消防署が一致団結して参る所存でございます。

結びに、消防団員、そしてご家族皆様のご健勝、ご多幸を祈念申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

## 市長表彰

永年勤続功勞消防団員

稲田分団 部長 飯嶋 利幸

退職消防団員功勞者

元本団 庶務部長 三平 浩等

元本団 警護部長 中山 浩

元稲田分団 副分団長 鈴木 昌巳

優秀消防分団 生田分団

## 多摩消防団長表彰

勤務成績優秀消防団員

稲田分団 部長 吉澤 久裕

生田分団 部長 齊藤 嘉章

勤務成績優良消防団員

稲田分団 団員 山本 厚志

生田分団 団員 小林 創

生田分団 団員 新井 基之

生田分団 団員 高橋 宏行

川崎 和成

松澤 直人

生田分団 団員 善治

元稲田分団 庶務部長 三平 浩等

元稲田分団 警護部長 鈴木 昌巳

元稲田分団 班長 安藤 聡利

元稲田分団 班長 山田 浩

元稲田分団 班長 石井 治郎

元稲田分団 班長 塚本 健治

元稲田分団 班長 三平 浩

元稲田分団 班長 井野 和雅

元稲田分団 班長 中野 修彦

元稲田分団 班長 小嶋 昌司

元稲田分団 班長 清宮 勝明

元稲田分団 班長 大藤 剛之

元稲田分団 班長 齊藤 裕之

元稲田分団 班長 原田 善治

元生田分団 班長 原田 善治

元生田分団 班長 元生田分団

元生田分団 班長 元生田分団

## 多摩防火協会長表彰

消防功勞部隊

稲田分団 長尾班、生田分団 東生田班

消すまでは 心の警報 ONのまま

(平成26年 統一標語)

# 多摩消防団 消防大会

七月十四日、明治大学生田キャンパス内において、第十三回多摩消防団消防大会が行なわれました。

酷暑をさける為、例年よりも早い時期の開催となり、各班から選抜された九隊が小型ポンプ操法の演技を行いました。  
稲田分団宿河原・堰班が優勝、稲田分団登戸班が準優勝、稲田分団中野島班が第三位となりました。



## 優勝

宿河原・堰班  
班長 木浪哲也

去年に続き今年も優勝出来まして二連覇をはたす事が出来ました。今年には二連覇を目標に操法訓練を行って来ました。選手はもちろんですが、それ以外のサポートにまわってくれた班員一丸となり、班員全員で勝ち取れた優勝だと思えます。また、班員が操法の練習に打ち込めたのも、家族や地元町会の皆様のご支援・ご声援があったからこそだと思っております。また来年もこの喜びをみんなで味わえるように、操法訓練ならびに消防団活動を頑張っていきたいと思えます。

## 個人最優秀賞

審査の結果、各番手の最優秀賞が発表されました。一点を争う接戦を制して受賞した選手に、大会や練習を振り返った感想を伺いました。

〈指揮者〉 中野島班 野村 亮

今年の操法大会は例年よりも一ヶ月早まり、訓練期間中は涼しく動きやすかったです。とてもアツい訓練ができたと思っています。優勝をめぐっていたのでチームとして三位と悔いが残る結果となりましたが、今後の課題などがわかり来年へ向けての糧としたいと思います。

指導いただいた先輩や、励ましてくれた仲間のおかげで個人賞がとれたと思います。感謝とともに教えていただいたことを後輩に伝えていきたいです。

〈一番員〉 東生田班 太田 聡

今回、多摩消防団操法大会に出場して、個人賞をいただく事ができたのは、指導して頂いた先輩の方々を始め、厳しい訓練を共にした選手の協力があつたからだと思えます。

訓練中は、規律や節度が求められ、迅速で確実な行動動作が必要となりました。緊張感がありました。それが得られた事を今後の消防団活動にも活かしていこうと思えます。

〈二番員〉 宿河原・堰班 池田 春樹

昨年四月に消防団に入団して、二回目の小型ポンプ操法大会。二年目ということもあり「定位置け」「操作始め」といった動きや、流れは、おおむね把握できていたので、昨年よりもスムーズに訓練に取り組みました。大会の日程が早まった事で、少し困惑する事もありましたが、優勝ならびに個人賞を受賞できて、大変嬉しく思っております。

仕事と訓練の両立で心身ともに辛い時もありましたが、私が生まれ育ったここ地元多摩区への「郷土愛と恩返し」の精神をもって頑張ることが出来ました。これからも消防団の一員として精進してまいります。

〈三番員〉 長沢班 関 賢人

入団七年目にして、初めて任せられた三番員で、最優秀選手に選ばれたとは思いませんでした。これも先輩方が、熱心に教えて下さったことや、OBの方々の様々な御支援があつたからだと思います。

最優秀選手に選ばれたことは、訓練で努力してきた結果であり自信にもなります。この経験を消防団活動で活かす為にこれからも頑張っていきたいと思えます。

# 消防団120年・自治体消防65周年記念大会 開催

11月25日に東京ドームで記念大会が開催され、多摩消防団からも本団役員ら多数が参加しました。

式典には天皇皇后両陛下もご臨席になられ、参加した本団役員からは「盛大な式典に参加し、全国の消防団の力と、それに対する期待の大きさを感じました」といった感想が聞かれました。

(当日は撮影禁止)



## 稲田分団大会

七月二十一日、稲田分団操法大会が開催されました。例年使用していた犬蔵の消防訓練場が衆議院選挙の関係で使用できなかったため、多摩区菅の多摩川河川敷が会場となりました。

各班の小隊訓練が披露され、その後の小型ポンプ操法では、伸ばしたホースを巻き取り、道具類を初期位置まで戻す撤収作業まで含めた演技を行いました。



十月十七日に全国女性消防操法大会に出場した、宿河原町会婦人消防隊も参加し、操法演技を披露して頂きました。



## 「みんなが消防士」事業

川崎市では小学校四年生を対象に、火の取り扱いの危険性や防火・防災の大切さを学んでもらうために「みんなが消防士」の授業を開催しています。多摩消防団では、各班が消防署員と共に地域の小学校に出向し、消防機材の説明や実演などをを行い、火災に対する注意を呼びかけました。参加した子供たちは、消防車



## 防災訓練への参加



両や機材を見て触れるなど消防を身近に体験できることを喜び、その操作方法などについて積極的に質問をしていました。火災のない安全な暮らしができるように、大人になってもこの「みんなが消防士」で学んだことを、いつまでも忘れずにいて欲しいと思います。

多摩区内各地区で、町会や自治会などによる防災訓練が開催されました。多摩消防団では多摩消防署と共に、団員が積極的に参加、協力してまいりました。

稲田分団中野島班は、町会防災委員会主催の器具ボックス・消火栓取扱い説明会に参加し、火災時の消火栓の開け方やホースのつなぎ方等の体験を指導しました。実際に二ヶ領用水からの放水も行い、参加者はホースの重さに驚いていました。

## 花火大会 特別警備

十月二十日、調布市花火大会が開催され、多摩消防団では多摩消防署と協力して、現地での警備部隊として花火大会に参加しました。

約三十名の団員が参加し、消防車両も待機させた他、多摩川河川敷のパトロールなどを行ないました。

## 多摩区民祭 警備

十月十九日、多摩区民祭が開催され、多摩消防団の生田分団が多摩消防署と共に会場警備のために参加しました。

会場となった生田緑地には森林が多く、民家園などの重要文化財もあり、特に喫煙やポイ捨てなどによる火災の発生が無いように、重点的にパトロールを行いました。



## 防火パレード

火を取り扱う機会が多くなる冬場を前にした十一月二十日、多摩防火協会が主催する防火パレードが開催され、多摩消防団も行進に参加しました。

オープンカーを先頭に、参加した各団体は多摩区総合庁舎から向ヶ丘遊園駅の周辺を行進しながら、火災予防を呼びかけました。



## 「耐火建築物防壁訓練」に参加して

八月四日に明治大学生田校舎内で行われた、多摩消防署と多摩消防団合同の訓練に参加しました。

この訓練では、解体予定の建物を使わせていただき、実際に建物内で放水を行いました。訓練前に詳細をあまり知らされず、実際に出動する時のような形で行ったので緊張し、とても良い訓練ができたと思います。今回は少人数の参加でしたが、今後も大勢の団員が経験できるように、同様の訓練を続けて欲しいと思います。



## 新入団員に、これまでの消防団活動の感想を聞きました

稲田分団 長尾班 鈴木 泰一

四月に入団しまして、もうすぐ一年が経ちますが、最初は右も左もわからず、がむしやらに先輩方についていってました。器具点検や操法の夜間訓練などを通して、徐々に消防の水に慣れ、日々の活動もスムーズにできるようになりました。

まだ、火災現場の経験も無く、まだ覚えることはたくさんありますが、団員として、少しでも早く戦力になれるよう、一生懸命活動していきたいと思えます。

生田分団 大作班 大木 康弘

消防団に入り約十ヶ月がたちましたが、様々な経験ができ、とても嬉しく思います。始めに消防団に入ったときでいい実感がわいたのは消火栓のチェックをしたときでした。地元の消火栓をどんどん回っていくうちにこれからもっと地域のために貢献していきたいという気持ちが高まってきました。

一番印象深いのが操法大会に出させていただいたことです。先輩達に時には厳しく時には優しく教えてもらったことはとてもいい経験になりました。

これからは更に地域の為に貢献していきたいよう、日々の訓練等がんばっていききたいと思います。

## 年末火災特別警備の実施

大晦日の夕方から深夜にかけて年末火災特別警備が行なわれました。各班では防火パトロールを実施して火災予防に努めると共に、団員が詰め所に待機して不測の事態に備えました。

三月で退団されました三平等さん・中山浩さんより、多摩消防団へ、テントが寄贈されました。大切に使用させていただきます。ありがとうございます。

## 編集後記

今号も多くの活動を紹介しましたが、特に今回は、行事への参加感想などを多くの団員から聞きとり、記事にしました。頑張った活動している消防団員の意気込みや思いを、少しでも感じていただければ幸いです。多摩消防団だより第十三号の発行に際し、御協力頂いた皆様に厚く御礼申し上げます。